

福祉サービス第三者評価 評価結果

小鳩保育園

横浜市神奈川区神奈川 2-17-6

運営主体：社会福祉法人 神奈川労働福祉協会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4～5 ページ
分類・項目別評価結果	6～17 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	18～25 ページ
利用者本人調査分析	26～28 ページ
事業者コメント	29 ページ

2009 年 1 月 26 日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま



実施概要

事業所名	小鳩保育園	
報告書作成日	2009年1月7日	評価に要した期間 約6ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間： 08年7月19日～08年9月30日</p>	<p>5月～6月の職員会議や園内研修で、または個別に主旨を説明し、その後評価機関から説明を受けた。</p> <p>自己評価票を全職員、および土曜専任学生アルバイトに渡した。相互に話し合いながら記入し、その後各個人で記入した。5グループに分かれ1項目ずつ読み合わせながら意見交換をし、内容を確認した。</p> <p>内容を確認したものを再度全員に配布し、さらに追加する内容や修正する内容を確認した上で、各リーダー、園長で協議し、合意しまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間： 08年9月16日～08年9月30日</p>	<p>全園児の保護者（49家族）に対して、保育園からアンケート用紙を手渡して配布した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日： 第1日：08年10月30日 第2日：08年11月06日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：書類調査。園長・主任に面接調査。 夕方は、降園の様子を観察。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 昼食：幼児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 午後：各クラス担任保育士5名、准看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名、主任に個別に面接調査。 その後、園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日： 第1日：08年10月30日 第2日：08年11月6日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施した。戸外・園外での活動も観察。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

「小鳩保育園」はJR京浜東北線「東神奈川」駅から徒歩6分、京浜急行線「仲木戸」駅から徒歩5分で、旧東海道の神奈川宿のあった場所のそばに位置しています。駅に近いですが公園や古い神社、寺が多くあり、また、近くには第一京浜道路が走り、工場、店舗、マンションも立ち並ぶ地域です。定員は0歳児から5歳児で60名、開所時間は延長時間を含め、平日は7:30~20:00、土曜日は7:30~16:30です。

園の建物は築21年、敷地が狭いために鉄筋の4階建てになっていて、園庭がないので、代わりにすぐ前の公園を日常的に使用しています。園舎も狭いので、中長期計画として、子どもたちが本をゆっくり読めたり、地域の親子も遊びに来て自由に遊んで帰れるような場所の確保に取り組んでいます。

運営法人は社会福祉法人神奈川労働福祉協会です。「小鳩保育園」は、昭和32年に初代園長の自宅を開放して働くお母さんたちが交代で仕事を休んで子どもをみる、という、手作りの保育園として始まりました。認可を受けてからは時代に先駆けて、乳児・長時間・障がい児保育を実践し、昨年50周年を迎えました。現在、他に「横浜市かながわ保育園」「矢向保育園」「山崎保育園」の3園を運営し、法人の事業として「横浜市かながわ保育園」で休日保育も行い、法人の運営する園以外の子どもたちも受け入れています。

法人の保育理念は「子どもたちの『今、ここに生きる』を大切にし、一人ひとりが『かけがえのない存在』と感じて、自信を持って生きていく力を育てます」です。そして「小鳩の子ども像」として、まず「小鳩保育園は、父母と園とが子育ての悩みや喜びを伝え合い、みんなで育ちあいます」とうたい、「体をおもいきり使い、友だちと遊ぶのが大好きな子」「自分で考え行動できる子」を掲げています。

高く評価できる点

1、0歳児のときから体力づくりをし、生活習慣も地道に積み上げています

- 敷地が狭いため、園舎は4階建てで、乳児の保育室は2階です。それを逆に活用して、子どもたちは0歳児のときから、ハイハイができるようになると4階のプレイルームまでの階段の上り下りに挑戦し始め、雨天などで外遊びのできないときにも体力や運動能力を培っています。4、5歳児は日頃から、力いっぱい、鉄棒やうんてい、登り棒などに挑戦しています。それを見て、小さい子どもたちはあこがれ、また大きい子どもたちが自分の経験を活かして小さい子どもたちに教えたり、励ましている姿が見られます。
- 生活習慣は、全年齢を通して一貫した方針で培われています。0歳児のときから「やる気」と「出来た喜び」が大切にされ、保育士は必要以上に手を貸さず、せかさず、じっと見守り、出来たときには喜びを共にします。そのようにして育ち、5歳児はすっかり自立しています。園庭代わりに使用している園の前の公園で皆が遊び終わるときには、5歳児が公園を一周し、片付け忘れたおもちゃがないか見回ります。そして三輪車などをきちんと並べて収納します。この公園は柵がありませんが公園の外に出る子どもはいません。公園に行くには道路を横断しますが、飛び出す子どももいません。日々の積み重ねにより、子どもたちには自然な形で交通ルールや危険から身を守る意識が育っています。

2、職員同士また保護者との連携プレーによる、充実した保育がなされています

- 全職員が、一人ひとりの子どもを皆で見ている、という意識で働いています。各種会議、特に「現場会議」が大切にされています。「職員会議」では、常勤職員が交代で会議の司会者になり、全員が自由に意見を出し合い、子どもの姿を把握し、見直しています。一番小さい会議は「廊下会議」と呼ばれ、子どもたちの午睡時に必要に応じて話し合いをします。非常勤職員を含めて10代から70代までの幅

広い年齢層の職員が様々な視点から子どもを見つめ、連携し、協力し合い、園全体を家庭的な暖かい雰囲気にはしています。

- 「父母の会」があり、毎月のように園内報「おひさま」を発行して、園や子どもの様子も伝えていきます。年間行事のうち、「夕涼み会」などは父母の会が主担当し、「夕涼み会」の翌日は保護者が子どもたちのために園舎を大掃除します。園庭代わりに使っている前の公園の掃除は職員が毎朝行いますが、父母も週1回、朝、仕事に行く前にごみを拾って行きます。また、各クラスの保護者から、防災、懇談会、もちつき大会などの係が出て、夏に幼児が園外プールへ行くときにも保護者から協力者が各クラス2名以上出るなど、園との協力体制で活動しています。このように、「父母と園とが子育てをとおして共に育ちあう」という園の方針のもと、充実した保育がなされています。

独自に取り組んでいる点

1、職員のモチベーションが上がり、資質も向上する仕組みがあります

- 園内・外研修とも活発に行われ、外部講師を招いての研修会も行っています。日々の保育を積み上げ、年度末には各クラスの子どもの姿をまとめた文集「こぼと」を発行しています。また、運動会のしおりにも各クラスの子どもの姿、発達の特徴に応じた各種目のみどころなどが書かれ、少し手を加えれば外部研修で発表する資料になるくらい充実しています。外部研修での発表の機会にも積極的に参加しています。実践面での成果が、更に職員のモチベーションを上げています。
- それを支えているのが園の体制です。精神面では、誰でも自由に意見を言える組織作りや、一人ひとりがやってみよう保育に挑戦できる応援体制。身体面では、年次休暇、保健休暇（誰でもとれる生理休暇）の保障。実働時間が守られ、研修も勤務時間内に行かれる体制を作っています。その他休憩時間に専門家のマッサージも受けられるなど、職員の健康にも配慮が感じられます。また、「働き続けられる職場」を目標にして、男性職員でも長く勤められる職場、出産・病気などで退職した職員も状況に応じた復帰ができるような職場の実現に向け、体制作りにも取り組んでいます。

2、全園児に家庭訪問を行い、一人ひとりを把握しています

- 毎年、年度初めに各クラスで「家庭訪問計画表」が作られ、保護者の事情を考慮して、1年をかけて希望日に家庭訪問を実施しています。計画表には訪問時期と訪問のねらいが書き込まれます。訪問後は一人ひとりについて「家庭訪問記録簿」に、話し合った内容、家庭の様子、保護者の状況、子どもへの対応などが記載され、貴重な資料となります。また、家庭への訪問が保護者とのよりよい関係作りにも役立っています。

改善や工夫が望まれる点

1、不審者対策など防犯面で保護者の不安感があります

- 園の門扉付近には防犯カメラが設置されています。各クラスに防犯委員がいるほか、近所に園の見回りを行う協力者がいます。ポリスネットから不審者情報も入り、警察も近くにあることから、協力が得られる体制にあります。しかし、保護者の2人に1人が「防犯面に不安を感じている」というアンケート結果となっています。保護者に対して園の取り組みを丁寧に説明し、話し合い、理解し合い、対策について再度考えることが望まれます。

2、少数の保護者の意見も吸い上げて、更なる充実が期待されます

- 父母の会で活発に活動する保護者が多い反面、年間の計画や父母の会などについて、「説明が不十分」「行事が負担だ」というような声が、多くはありませんが出ています。一人ひとりの保護者の思いを把握する方法を積極的に検討し、更に充実した「みんなで育ちあう」園になることが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 法人の保育基本理念は「子どもたちの『今、ここに生きる』を大切にし、一人ひとりが『かけがえない存在』と感じて、自信を持って生きていく力を育てます」で、子ども本人を尊重したものになっています。
- ◇ 法人として「個人情報取り扱い登録」をし、個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくっています。守秘義務の意義や目的は全職員の他ボランティア・実習生にも周知し、保護者にも説明しています。
- ◇ 子どもを叱るときに大きな声を出さない、子どもの呼び方に気をつけ呼び捨てはしない、威圧的な言葉遣いや無視が行われないよう職員会議で取り上げる、など職員間で相互に配慮しています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 各クラス目標に、年齢に応じて、「自分でしようとする気持ち、意欲」、「自分でできる喜び」、「意欲的な取り組み」などをあげて、子どもの意思を大切にしています。
- ◇ 生活習慣は、全年齢を通して一貫した方針で培われています。0歳児の時から「やる気」と「出来た喜び」が大切にされ、保育士は必要以上に手を貸さず、せかさず、じっと見守り、出来た時には喜びを共にします。そのように育つ中で5歳児になるとすっかり自立しています。
- ◇ けんかをした場合、子ども同士でお互いに自分の気持ちを言葉で言い合えるように、保育士は支援しています。必要に応じて保育士が間に入り、周辺の子どもたちにも、どうすればいいのか、他の子はどのように思うのかなど、一緒に考えるようにしています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 各クラスの保育目標、食育の目標を園のしおりにも書き入れ、毎年保護者に配布し、意見を聞いています。またポイントとなるところは年度初めだけでなく、懇談会などでも随時伝え、家庭と一緒に取り組んでいくようにしています
- ◇ 年間指導計画にあわせて月間指導計画を作成し、毎月、乳児部・幼児部会議で評価、見直しを行っています。乳児部・幼児部会議は、正規、常勤、非常勤、栄養士、調理員が参加しています
- ◇ 玄関に意見箱を置き、クラス懇談会や家庭訪問などでは保護者の意見・要望などを聞くようにしています。また、乳児担当職員1名、幼児担当職員1名が父母の会を担当し、父母の会と日常的に意思交流をし、自由に意見を出してもらうようにしています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 園の行事である人形劇団の公演や夕涼み会などは地域にも案内を出して、地域住民との交流の機会を設けています。また、病院の紹介でプレママの見学や相談を受けるなど、施設に対する要望を把握するように務めています。
- ◇ 小学校や地域ケアプラザに園児が訪問して交流を図っています。また、消防署の出初式を見学したり、小学校の運動会や他の園の運動会など、地域の行事や活動に参加したりしています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 法人としての倫理綱領、園としての倫理綱領が明文化され、職員に配布されています。経営、運営状況などの情報は、毎年度、法人の決算報告書、各園の事業報告書で明らかにしています。
- ◇ 園の理念・基本方針は明文化されて各職員に配布され、玄関、事務室、保育室などにも掲示されています。

ます。園長は、その理念・基本方針が毎月の指導計画の内容に生かされているかを確認し、また乳児部・幼児部会議では職員同士でも確認し合っています。

- ◇ 園の運営に関して、毎月、現状と取り組みに対する報告、意見、提議などを出し合い、職員全体でよく話し合い、改善課題があれば設定しています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 人材育成に向けて、今年度から、法人として、法人の方針、園の方針をふまえた、新人、中堅、中途採用、幹部向けの研修計画が策定されました。法人内でも人材を育成し、将来に備えています。
- ◇ 園運営のための係りを、正職員全員と常勤でクラスを担当している職員で分担・担当する仕組みになっています。どの係りになるかは、本人の希望と全体から見ての必要性・適正・経験から決められます。職員一人ひとりが園運営の責任を持つことで、若い職員も自主性と責任感が育ち、職員全体のモチベーションを上げています。
- ◇ 担当別会議では常に子どもの姿について見直し、互いに助言しあっています。また職員会議の場では、全体的見直しに関する事を、常に全員で検討しています。これらの会議の積み重ねが職員の技術の向上に大きくつながっています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。









「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある


評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 法人の保育基本理念は「子どもたちの『今、ここに生きる』を大切にし、一人ひとりが『かけがえのない存在』と感じて、自信を持って生きていく力を育てます」として、子ども本人を尊重したものになっています。また、園独自には、まず「父母と園とが子育ての悩みや喜びを伝え合い、みんなで育ちあいます」という姿勢を打ち出し、具体的に次のような小鳩の子ども像を掲げています。 「体をおもいきり使い、友だちと遊ぶのが大好きな子」 「自分で考え行動できる子」 各クラスの保育目標、食育の目標を園のしおりにも書き入れ、毎年保護者に配布し、意見を聞いています。またポイントとなるところは年度初めだけでなく、懇談会などでも随時伝え、家庭と一緒に取り組んでいくようにしています。 各クラス目標に、年齢に応じて、「自分でしようとする気持ち、意欲」、「自分でできる喜び」、「意欲的な取り組み」などをあげて、子どもの意思を大切にしています。各種会議のほか、日々の保育中にも、子どもの午睡時に担当者が話し合い、それらの目標がどのように達成されているかを見直しています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 入園前に個人面談をして、個別の生活調査票に発達状況や家庭での様子を記録しています。その内容は全職員が把握しています。 全年齢で連絡帳を使用していますが、新入園児については、特に保護者とのコミュニケーションを大切にして、子どもの姿や他の子どもとの関わりなどを丁寧に書き、さらに直接言葉でも伝えていくようにしています。 年間指導計画にあわせて月間指導計画を作成し、毎月、乳児部・幼児部会議で評価、見直しを行っています。乳児部・幼児部会議は、正規、常勤、非常勤、栄養士、調理員が参加しています。

<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育室に清掃チェック表を置き、清掃の担当を決め、常に清潔に保つようになっています。 ・ 沐浴設備、シャワー室はフリーの准看護師が常に管理・点検を行っています。 ・ 乳児室は畳の部分と床の部分を使い分けたり、4階のプレイルームを活用したりして、月齢による小集団保育などが落ち着いてできるように工夫しています。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児は個別指導計画を作成しています。1歳児は個別指導部分・個人的配慮と集団指導計画を併用しています。幼児でも要支援児や気になる子どもについて個別指導計画を作成しています。また、どの年齢でも毎月の指導計画の中に個人的配慮を盛り込んでいます。 ・ 個別に家庭訪問記録があり、全園児について、家庭の様子が記録されています。加えて、送迎時などにも保護者から要望などを聞いて記録しています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配慮を要する子どもの個別指導計画は、乳児部・幼児部会議、職員会議で子どもの姿や保育士の関わり方について話し合い、一人ひとりの障がい特性に配慮して立てています。特に個別の配慮点については、職員間で一致させています。 ・ 障がい児保育について、乳児部・幼児部会議、職員会議で全職員が話し合う体制ができています。子どもの姿について会議で話し合っ理解を深め、年間のまとめも園内研修として全員で行っています。また、東部地域療育センターからの巡回指導の際、短時間でも午睡時に話し合う時間を作ってミニ研修会を行っています。 ・ アレルギー食については、保護者の了解を得て、献立表に印をつけたり、写真掲示をしています。また、アレルギーが多い子どもの場合は、毎月栄養士がチェックした献立表を前もって保護者に見てもらい、チェックしてもらっています。 ・ 他文化理解のために、アフリカルチャー（アフリカの踊りや楽器を演奏してくれる）を誕生会に呼んで、一緒にリズム遊びを楽しんでいます。また、子どもが腰に紐のお守りを巻いたり、耳にピアスをするなどについては、保護者の要望を受け入れています。他の子どもたちには、その国で皆がしているお守りだと話し、子どもたちは納得しています。
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 玄関に意見箱を置き、クラス懇談会や家庭訪問などでは保護者の意見・要望などを聞くようになっています。また、乳児担当職員1名、幼児担当職員1名が父母の会を担当し、父母の会と日常的に意思交流をし、自由に意見を出してもらおうようになっています。 ・ 行事の後にはアンケートを行い、感想や意見、提案を募っています。一年間に寄せられた苦情について、年度初めに園だよりに掲載することにしていますが、昨年度寄せられた苦情はありませんでした。 ・ 園のしおりに第三者委員の氏名や電話番号などを提示し、必要があれば保護者が連絡できるようにしています。園として第三者委員と年1回定期的に会合を持っていますが、現在のところ特に相談するケースは起こっていません。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 344 472 383">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul data-bbox="600 259 1474 1361" style="list-style-type: none">・ 幼児は廊下やベランダを必要に応じて遊びのスペースとして利用したり、乳児は月齢で遊びを分けたりしています。また、カーペットや牛乳パックで作った箱を活用し、コーナー設定を工夫して、子どもの発達に応じて落ち着いて遊べるように配慮しています。・ 公園での体を使った集団遊びでは、みんなで一緒に遊ぶ楽しさとともに、友だち関係やルールを守るなどの社会性が身につくように配慮しています。例えば、しっぽ取り鬼ごっこでは、2歳児はしっぽを取る、3歳児になるとしっぽを取られたら鬼を替わるという様に段階を踏んで理解が進むように支援しています。・ プランターで育てたゴーヤやなす、プチトマトなどを使ってクッキング保育や、野菜の観察画を描いたり、亀の飼育を通して生き物の成長の様子を知ったりするなど、さまざまな体験を保育活動にフィードバックしています。・ 幼児には、キーボードに触れる機会を設けたり、乳児にはわらべ歌を取り入れています。子どもたちは、日常的に自由に歌ったり、体を動かしてリズムをとったり、絵本の読み聞かせの時にも合わせて身体を動かしています。・ けんかをした場合、子ども同士でお互いに自分の気持ちを、言葉で言いあえるようにして支援しています。必要に応じて保育士が間に入り、周辺の子どもたちにも、どうすればいいのか、他の子はどのように思うのかなど、一緒に考えるようにしています。・ 発達段階に応じて運動能力を高められるように、公園の遊具を年齢に応じて活用しています。雨の日には、4階のプレイルームを使って、0歳児はハイハイやつかまり立ちのスペースの確保、1、2歳児は段差や平行板、平均台を活用し、運動能力を高めています。

- 1 保育内容[生活]







- ・各年齢の保育計画に食育活動を入れていきます。クッキング保育は保護者からの要望も多く、栽培した物を調理したり、とうもろこしや空豆の皮むきをしたり、年齢に応じた関わりを通して、食事への関心・興味が育つようにしています。
- ・子どもの成長・発達や用途に即した食器を選んで個々の成長・発達に応じて、その都度変えていくようにしています。例えば、乳児はふちのあるお皿を用意し、自らすくって食べる喜びを感じられるようにしたり、お箸にかえる前の2歳半ばぐらいから、遊びの中にお箸を取り入れて少しずつ慣れていくように工夫しています。
- ・給食は1ヶ月に2回サイクルの献立を作成し、1回目の子どもの喫食状況をみて2回目の提供時に活かしています。栄養士や給食担当者は、交流食事会の時などに子どもたちに関わったり、乳児部会議や幼児部会議で保育士から情報を聞いたりしたことを、調理方法や献立作成の工夫に役立てています。
- ・給食日より、園日より、文集「こぼと」などにレシピを紹介し、献立作成のポイントなどの情報提供を行っています。また、必要に応じて懇談会に栄養士が参加し、保護者と直接話をしたり、新入園時の慣らし保育の時に保護者が子どもに食べさせる機会を設けたりするなど、保護者にも食育についての理解を促しています。
- ・午睡は、連絡帳に保護者が書いた内容から睡眠時間や体調などを確認し、子どもの様子にあわせて入眠時間や起床時間を調節したり、静かに過ごさせるなど柔軟に対応しています。遮光カーテンを使用し、布団の位置を工夫するなど、眠れる環境を心がけ、お話や物語を読んだり、子守唄を歌ったりして、心地よい眠りにつけるように工夫しています。
- ・小学校へ行く準備として、年長児は適当な時期から午睡を一斉活動とせず、「ごろごろタイム」という、静かに過ごす時間を経験します。その時間を通じて午睡をしないことに慣れていくようにしたり、文字学習を始めたりしていきます。
- ・トイレトレーニングは、間隔があいてくると子どもをトイレに誘い、子どもが自覚できるように支援し、子どもが排尿や排便を覚えてくれた時は、「できたね」と声をかけ、達成感を共感することを大切にしています。また、保護者に園での排泄状況を知らせ、連携をとりながら、あせらず、ゆっくりと個別に対応しています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]





- ・子どもの健康管理に関するマニュアルがあり毎年見直しています。既往症についてなど保護者からの情報や子ども一人ひとりの健康状態を把握し、健康台帳に記載しています。また、子どもたちにも、等身大の大型絵本やエプロンシアターを使い、体の仕組みを話し、子どもたちの健康への関心を育てるように配慮しています。
- ・歯科健診の結果は保護者へ各園児の結果表を渡し、園にも一覧表を残しています。また、年度末には健康台帳を保護者に返し、追加・修正部分の記入をしてもらい情報を共有し連携を密にしています。
- ・登園停止基準や保育中に感染症などの疑いが生じた場合の対応マニュアルがあり、保育園のしおりにも載せ保護者に周知しています。




	<p>感染症が発生した場合には、速やかに掲示し保護者に情報を提供しています。</p>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生管理に関するマニュアルがあり、内容については職員会議で取り上げ、全職員が共有し毎年見直しています。 ・ マニュアルに沿って、乳児のおもちゃのアルコール消毒、布団は乾燥と丸洗いをする、害虫の駆除の時期を決めるなどの具体策を講じています。 ・ 年2回の園舎大掃除のうち、父母の会の年間方針として夏は保護者参加で行うなど、保護者の積極的な協力があります。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理マニュアルがあります。一時避難場所となっている小学校とは常に交流を持ち、避難経路を決めているだけでなく、散歩など園外保育時の経路図・避難図を各クラス、事務所に掲示して緊急時に備えています。また、月1回の防災訓練は、延長保育や長時間保育を対象とする時もあります。 ・ 事故対応マニュアル、医療機関の一覧表を各クラスに掲示し、保護者や救急機関、地域への連絡体制が確立しています。また、災害発生時には、保護者の防災委員がかけつけ園で共に行動することになっています。 ・ 子どものケガについては、軽症であっても「連絡板」に引継ぎ連絡事項として記入し、引き継いだ職員が保護者に伝えています。また、職員会議で事故について報告し、再発防止策の検討が行われています。 ・ 不審者等の侵入防止策として防犯カメラを設置し、夕方以降と土曜保育など人の少ない時間帯には、1階の出入り口に鍵を掛け、2階から出入りするようになっています。 ・ 不審者・不審物などの緊急通報は近くにある警察署や、保護者の防災委員に連絡すると、見回りをしてくれたり、かけつけてくれたりするなど地域との協力関係が来ています。 ・ 園としては防犯対策をしていますが、防犯の取り組みについて保護者の気持ちをくみ入れ、再度検討することが望まれます。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもに対して叱るときに大きな声を出さない、子どもの呼び方に気をつけ呼び捨てはしないなど、威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう、職員会議でも取り上げるなど、職員間で相互に配慮しています。 ・ 押し入れの下、1,2階の階段そばの空間やピアノの横とロッカーの間、靴箱のそばの空間など、子どもたちの隠れ家的な場所があり、保育士は安全を確認しながら子どもが自由に過ごせるようにそっと見守っています。 ・ 法人として個人情報取り扱い登録をし、個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくっています。守秘義務の意義や目的は全職員の他ボランティアや実習生にも周知し、保護者にも説明しています。 ・ 虐待の定義について、園外研修に参加した職員が全職員会議で報告し、家庭支援の必要な保護者を援助し、虐待の予防に配慮できるように話し合っています。また、虐待が明白になった場合や疑われる



	<p>場合にも、区保健福祉センター、東部地域療育センターなど、関係機関に迅速に通告・相談する体制を整えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 順番、グループ分け、遊びや持ち物で性差による区別をせず、子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的にとらえた話し方、表現をしないようにしています。また、園内研修でとりあげ、無意識に性差による固定観念で保育をしていないか、絵本の中でジェンダーフリーの視点からみてどうかということなどを話し合い、職員同士で反省する仕組みをつくっています。
<p>- 4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者に園の理念や保育姿勢について理解されるように園だよりやクラスだよりなどを保護者向けに発行するほか、連絡帳だけでなく、運動会のしおりや毎年年度末に発行する文集「こぼと」などで、子どもの姿や各年齢の子どもの成長の特徴、日常保育の中に取り入れている理念や保育姿勢について保護者にわかりやすく伝えていきます。 ・ 懇談会は保護者が参加しやすいように夜に開催しているため、保護者の出席率も高く、十分にクラスの様子を伝えていきます。また、1年間の間に保護者の意向を踏まえて担任が家庭訪問を実施し、家庭の様子や子どもについて理解を深めるよう努め、より良い関係につながっています。 ・ 保護者からの相談を受けた職員は、担任やリーダー、園長と相談できる体制があり、乳児部会議、幼児部会議、職員会議でも話し合うなど、継続的なフォローができます。また、中堅以上の職員はカウンセリング研修に参加して知識を学んでいます。 ・ 乳児・幼児ともに、連絡帳でその日の保育の様子を伝えていきます。また、懇談会で、日常の子どもの姿や保育内容・目的を説明していますが、もちつきや夕涼み会の時などには、父親も含めてより打ち解けたなかで情報提供ができています。 ・ 年度初めに年間行事予定を知らせ、保護者が保育参観・参加のための休暇等の予定を立てやすくしています。また、保育参観・参加は、保護者の希望に添って受け入れ、参加後の感想をクラスだよりに載せるなど、保護者の関心につなげる工夫をしています。 ・ 父母の会は活発に活動していて、会議の為に保育室などを利用することが出来ます。父母の会が発行する園内報「おひさま」では、行事のお知らせや報告、保育士の紹介など、園の情報を発信しています。 ・ 父母の会には園長、保育士2名が毎回参加し、父母の関わる行事の反省会には、父母の会担当職員と園長が参加しています。職員に父母の会担当者がいるだけでなく、保護者も防災委員などの係が決められ、常にコミュニケーションが取れています。


評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人形劇団の公演や夕涼み会などの行事は地域にも案内を出して、地域住民との交流の機会を設けています。また、病院の紹介でプレママの見学や相談を受けるなど、施設に対する要望を把握するように務めています。 ・ 50周年記念事業として連続講座を地域にも公開で開催し、育児講座やミニ講演会を行いました。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「保育園に聞きたいこと」という案内を作り、区の説明会で配布するほか、園内に設置し、電話での問い合わせの際にも情報提供のために活用しています。 ・ 臨床育児・保育研究会や全国保育団体連絡会の活動に職員が関わり、その発行雑誌である「エデューカーレ」や「ちいさいなかま」などを担当しているほか、園長が地域の学童保育の運営委員を務めるなどの関係があり、相談内容に応じて関係機関・団体等と連携することができます。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・夕涼み会チケットを連合町内会長と使用公園の町内会長、神社、他の周辺の保育園、診療所などに配り地域の人を招待し、最終的には300名程の参加があります。 ・園前の公園の清掃を、職員や父母の会の担当者を決め、年間方針として行うなど、近隣との友好的な関係を築くための取り組みを行っています。 ・子どもたちは、散歩の途中で地域の人と挨拶を交わしたり、クッキング保育で使う野菜を買いに行ったり、栽培する花や野菜の苗を買いに行くなど、日常的に地域の人たちと積極的に交流を図っています。 ・小学校や地域ケアプラザに園児が訪問して交流を図っています。また、消防署の出初式を見学したり、小学校の運動会や他の園の運動会など、地域の行事や活動に参加したりしています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレット・広報誌等により、地域や関係機関に随時、情報を提供しています。その他、タウン情報に講演会のお知らせを掲載したり、電話帳に広告掲載するなど、外部の情報提供媒体に対して園の情報を提供しています。 ・園の基本方針や利用条件・サービス内容などについての問い合わせに対しては、「保育園に聞いてみたいこと」という園の情報を載せた案内を用意しています。 ・見学者には、当園を希望する理由や保育園への希望などをよく聞き、子どもを連れてきた時は、クラスで一緒に遊べるようにしています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや実習生の受け入れマニュアルがあり、それに基づき園の方針、利用者への配慮などを説明しています。 ・ボランティアや実習生の受け入れは担当が決まっていて、実習目的に応じた効果的な実習が行われるようにプログラムなどを工夫しています。 ・ボランティアや実習生が入る事で、終了後の感想や意見を園運営に反映させるほか、保育士にとっても良い刺激になっています。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成に向けて、今年度から、法人として、法人の方針、園の方針をふまえた、新人、中堅、中途採用、幹部向けの研修計画が策定されました。法人内でも人材を育成し、将来に備えています。 ・ 毎年度末に職員一人ひとりが、一年間の保育をまとめ、自らの振り返りを行っています。その一部は毎年、保護者向けに文集「こぼと」に掲載されます。また、年度の終わりの次年度の担任を決める職員会議の際、一人ひとりが希望を出し、その理由、目標を全員で検討し、担任を決めます。そして一年後、その目標がどうであったかを全員で検討します。一人ひとりの反省、評価、新たな目標が、全体的話し合いで深められます。これらが、個々の職員の資質向上の柱となっています。 ・ 園内研修は月1回行っていますが、1学期に1回は外部講師を招いて行っています。外部講師の研修では、年間を通じて1~2年齢児の実践報告をし、それについて外部講師の助言や指導を受け、話し合っ理解を深め、職員の力量を高めています。 ・ 園外研修にも園として計画的に積極的に参加し、職員の力と自信をつけています。年間を通しての研修は新人、中堅、中堅以上の職員向けのものがあります。それとは別に中堅職員2名が他の園と協力して、臨床育児・保育研究会の運営委員をしています。また、全国規模や関東ブロックの各種大会には園から複数参加し、研究発表を行っています。その他の園外研修や実地研修にも、希望者が多く参加しています。 ・ 非常勤職員の資質向上としては、フルタイムの非常勤職員が乳児部・幼児部会議や園内研修にも参加しています。短時間非常勤職員は、打ち合わせ会議を月1回行っていて、そこで資質向上が図られています。さらに、各クラスともリーダーを中心に非常勤職員とよいコミュニケーションが図られ、短時間非常勤職員との面接調査では、いい勉強になる、という声がありました。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回のクラス会議で毎月の指導計画を作成し、それをもとに乳児部・幼児部会議で話し合いをしています。その際、常に子どもの姿について見直し、互いに助言し合っています。問題がある場合は皆で考え、提案し合い、工夫しています。月1回の職員会議の場でも、全体的見直しに関する事を全員で検討しています。保育士への面接調査では、クラスが落ち着かない状態だったときに、会議で話し合い、様々な意見、工夫の提案をもらえて改善できた、という具体的な話も聞くことができました。 ・ 園内研修や1年の振り返りの会議では、良かった事例やもっと工夫が必要な事例を話し合い、理解を深めています。また、中堅職員の実地研修の報告から、他の園の優れたところを取り入れる検討なども園内研修の中で行っています。 ・ これら会議や研修の積み重ねが、職員の技術の向上に大きくつなが

	<p>っています。</p>
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園運営のための係を、正職員全員で分担・担当する仕組みになっています。どの係になるかは、本人の希望と全体から見ての必要性・適正・経験から決められます。職員一人ひとりが園運営の責任を持つことで、若い職員も自主性と責任感が育ち、職員全体のモチベーションを上げています。 ・ 年度初めの会議では、各係、即ち正職員全員から積極的な意見・提案を募っています。その他保育の現場、給食の現場で、「現場の話し合い」を大切にし、一人ひとりが自分の意見をしっかりと伝えるように配慮しています。その結果、職員全員が、より良い園を目指して働く職場になっています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 法人としての倫理綱領、園としての倫理綱領が明文化され、職員に配布されています。経営、運営状況などの情報は、毎年度、法人の決算報告書、各園の事業報告書で明らかにしています。 園としての環境への考え方や取り組みは「環境問題に関して」という文書にまとめられ、明文化されています。 リサイクルとして、牛乳パック、ペットボトル、空き箱、カップなどを利用して、教材や備品（牛乳パックで作ったベンチなど）を作っています。緑化の促進としては、夏には緑のカーテンを目指してプランターで朝顔やゴーヤを育てました。ゴーヤのつるは3階まで延びて、子どもたちが長い緑のカーテンを楽しみました。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園の理念・基本方針は明文化されて各職員に配布され、玄関、事務室、保育室などにも掲示されています。園長は、その理念・基本方針が毎月の指導計画の内容に生かされているかを確認し、また乳児部・幼児部会議では職員同士でも確認し合っています。 重要な意思決定が必要なとき、例えば50周年記念行事に取り組むときや法人が新園を開設するときなどは、理事長・園長が保護者と継続的に意見交換をします。父母の会総会や役員会、クラス懇談会でも取り上げ、必要な場合は保護者アンケートも行います。職員間では、職員会議、リーダー会議など異なる部門の職員が参加する会議で検討し、組織をあげて取り組むことができます。 園として、職員が精神的にも身体的にも良好な状態で仕事に取り組めるよう、職員の年次休暇と保健休暇（誰でもとれる生理休暇）などを保障し、研修も勤務時間内に行かれるような、様々な仕組みを作っています。主任は、園の方針が実際に行われるように具体的な配慮をすると共に、乳児部・幼児部会議で個々の職員の状況を把握し、休憩時間も職員の状況を把握する機会としています。職員は主任に直接相談することが日常的になっていて、主任はその都度必要な助言・配慮をしています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園長が保育園関係の各種団体の役員などをしているため、全国的な運営に関する情報や動向を把握していて、常に新たな仕組みを検討しています。 外部環境の変化に伴う重要改善課題への対応、例えば、保護者の勤務状況の変化に伴う保育時間延長の必要性、夕食の必要性などは、保護者へのアンケートも行い、職員全体で話し合い、検討しました。 園の運営に関して、毎月、父母の会係や延長会議係など各種係から現状と取り組みに対する報告、意見、提議などがあり、職員全体でよく話し合い、改善課題があれば検討しています。現在、中長期的な課題として、バリアフリーの工夫や地域の親子が遊びに来て自由に遊べる場所の確保、その他いくつかの課題を検討しています。 中長期的な後継者育成に関しては、法人として、幹部、中堅、中途採用ベテラン、新人についての育成計画を策定しています。また、「働

き続けられる職場」を目標にして、男性職員が長く勤められ、出産・病気などで退職した職員も状況に応じた復帰ができるような就業体制の整備にも取り組んでいます。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2008年9月16日～9月30日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 約87.8%（49枚配付、43枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...9人、1歳児クラス...9人、2歳児クラス...8人、3歳児クラス...8人、
4歳児クラス...3人、5歳児クラス...6人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。また、文中の「満足度」は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答をあわせたもので、「不満足」は、「どちらかといえば不満」「不満」の回答をあわせたものです。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者が95%以上です。「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者のうちの95%以上が保育目標や保育方針に「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。

【問2】入園時の状況について

「子どもの様子や生育歴などを聞く対応」「園での1日の過ごし方についての説明」「見学の受け入れについて」は、95%前後の満足度、「園からの情報提供」「園の目標や方針についての説明」「費用やきまりに関する説明」については80%前後の満足度でした。見学については、自由意見で“突然の見学にも快く受け入れてくれた”という声が多数ありました。

【問3】年間の計画について

2つの設問「年間の保育や行事についての説明」「保護者の意見が活かされているか」とも、20%以上の不満があります。自由意見では“大きな行事は年の最初に日程が掲示されるので助かる”という声もありますが、主に0、1歳児の保護者から“保護者参加かどうかなど、具体的な説明が不十分”というような声が出ています。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」については、「戸外遊びを十分しているか」「おもちゃや教材について」「遊びを通じての友だちや保育者との関わり」で95%以上の満足度でした。「遊びに子どもが満足しているか」「園外活動」「健康づくり」についても90%以上の満足度でした。自由意見では、“体が丈夫になった”、“遊びがとてもよく考えられ、工夫されている”“月齢ごとに見合った遊びが楽しめる”といったような満足の声が多数よせられています。

「生活」については、給食に関する設問「献立内容」「子どもが給食に満足しているか」が二つとも95%以上の満足度でした。また、「基本的な生活習慣」「昼寝や休憩」「体調への気配り」についても90%前後の満足度でした。一方、「ケガに関する説明や対応」について、20%強の不満がありました。自由意見では、“ケガの説明はきちんとしてくれる”という声も複数ありますが、子ども同士のトラブルでできたケガについて、“両方の子どもの情報がほしい”などの、不満の声がありました。

【問5】快適さや安全対策などについて

「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気」「感染症の発生状況や注意事項」について、20%以上の不満があります。また、「施設設備」「不審者侵入を防ぐ対策」については、50%以上の不満があります。自由意見では、「施設設備」に関しては少数ですが0、1歳児の保護者から、“エアコンの設備をもう少し充実してほしい”という意見が出ています。その他“狭い”“古い”“園庭がない”などのことにつ

いては、“改善してほしいが無理だ”という声が多いです。「不審者侵入を防ぐ対策」に関しては全年齢の保護者から“不安なので対策を考えてほしい”という声が出ています。“玄関を入るとすぐに保育室だが、誰でも入ってこられてしまう”という声も複数ありました。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「保護者からの相談事への対応」「園の行事の開催日や時間帯への配慮」について90%以上、「話し合いの機会」「柔軟な対応」も90%近い満足度です。自由意見では、“連絡帳で細かく様子を伝えてもらえる”“残業への対応もとても柔軟にしてくれる”“懇談会の日程も早めに連絡してくれるのでわかる”などの声がありますが、“父母会では活動する人が決まってしまう”という不平等感をもらす声もありました。

また、「送り迎えの際の情報交換」については、20%以上の不満度になっています。“担任の先生がいないと様子があまりわからない”“もう少し伝達をしっかりとしてほしい”という声もありました。

【問7】職員の対応について

「子どもが大切にされているか」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」は95%以上、「話やすい雰囲気、態度」「意見や要望への対応」は90%以上の満足度です。「アレルギーや障害のある子どもへの配慮」については88%ですが、不満度は0%です。自由意見では職員に対して、“とても満足している”という感謝の声が多数寄せられています。

【問8】保育園を総合的に評価すると

97.7%の満足度です。あとの2.3%も「どちらかといえば不満」で、「不満」は0%です。ほとんど全員の保護者が満足しています。

まとめ

- ◇ 「年間の計画」「快適さ」「送り迎えの際の情報交換」「ケガに対する説明、対応」に20%以上の不満度、「施設設備」「不審者侵入を防ぐ対策」については50%以上の不満度があるにもかかわらず、「総合的な評価」では100%近い満足度が示されています。これは特に、「遊び」「生活」そして「職員の対応」などについての満足が、不満を覆うに余りあるものだからだと思われます。自由意見の中の多数の感謝の声からは、“親だったらやめさせてしまうだろうと思うようなことも自由にやらせてくれ、のびのびと育てている”“集団生活のマナーも育てている”“体力がついた”“安心して預けられる”など、子どもの姿に十分に満足している様子がうかがえます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間：2008年 9月16日～9月30日

回収率：87.8%（回収43枚 / 配布49枚）

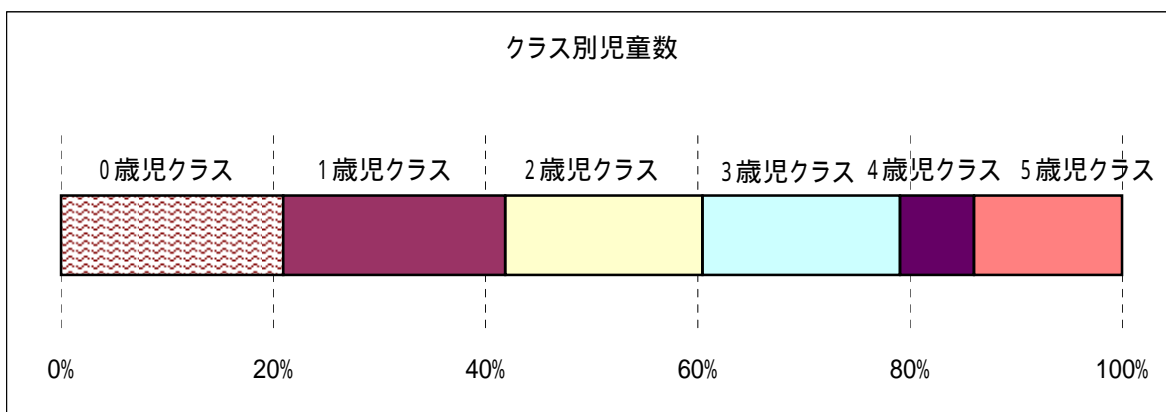
【属性】

クラス別児童数

（人）

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
43	9	9	8	8	3	6	0

同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



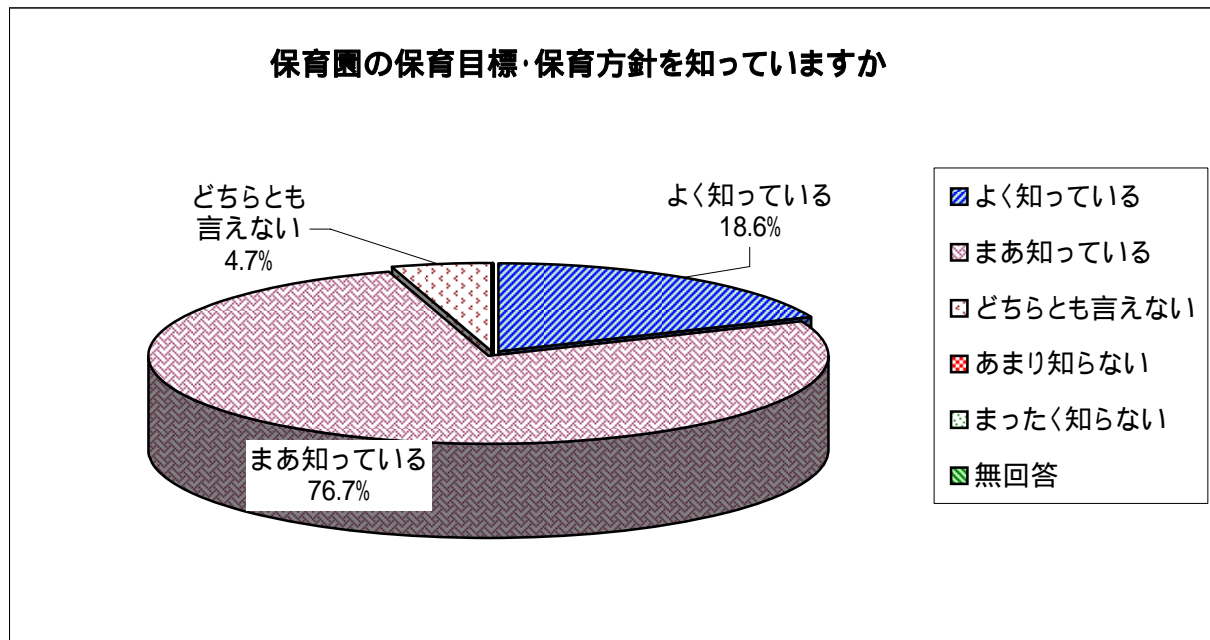
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	18.6	76.7	4.7	0.0	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

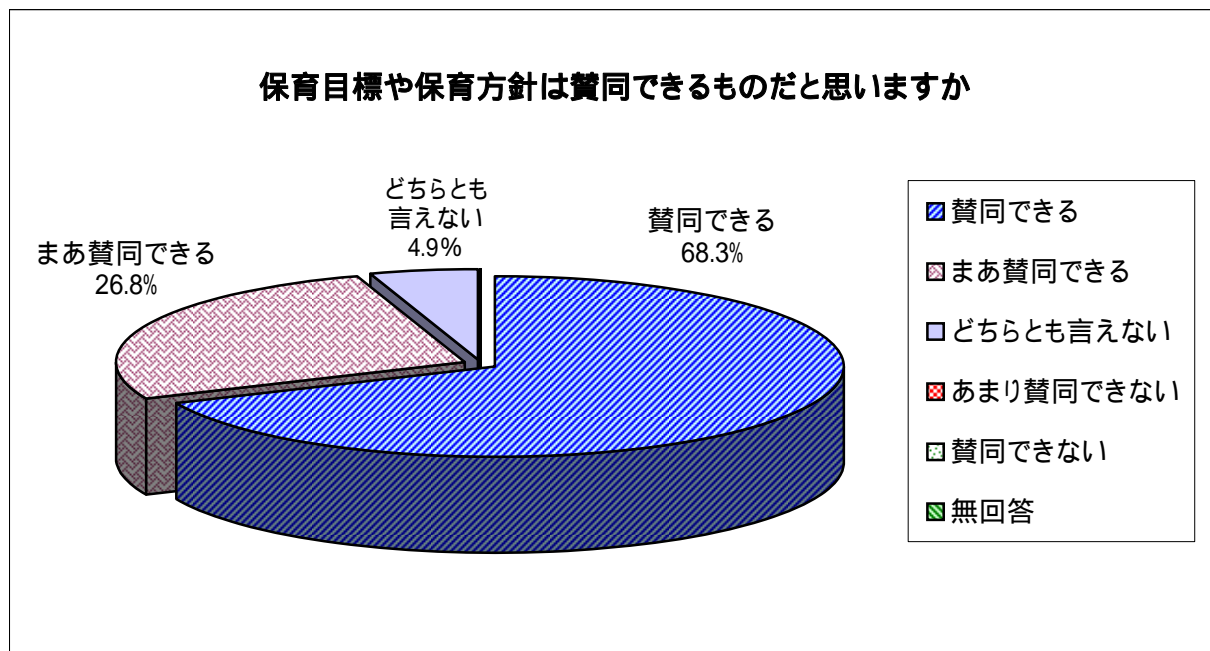


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	68.3	26.8	4.9	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

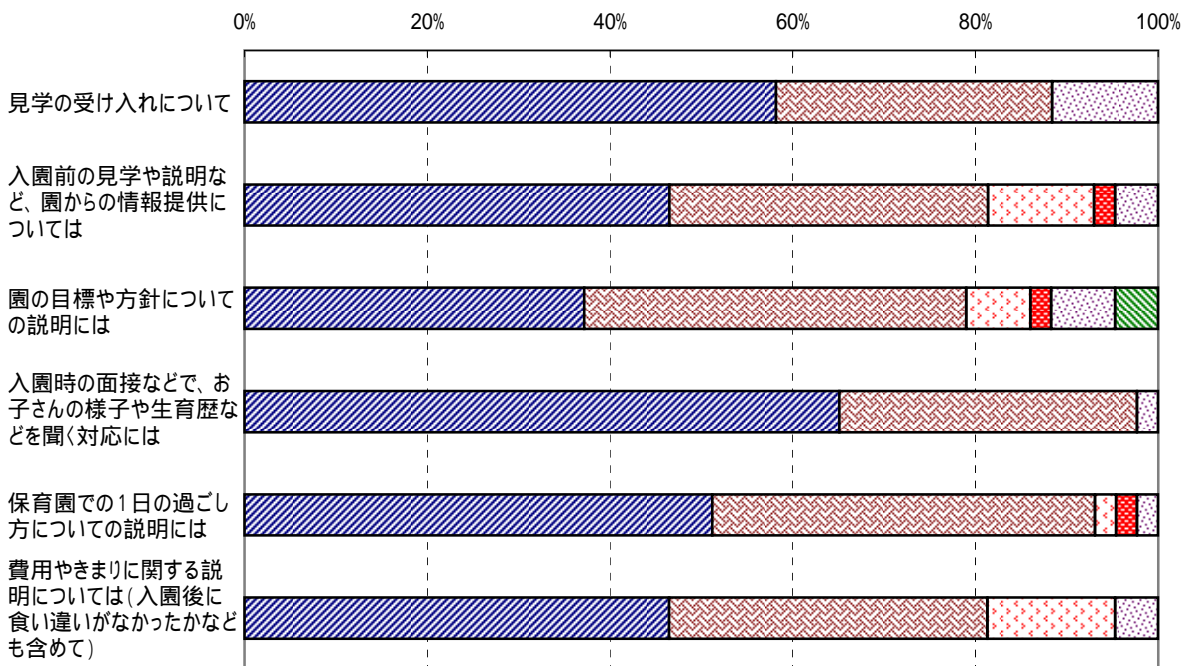
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	58.1	30.2	0.0	0.0	11.6	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	46.5	34.9	11.6	2.3	4.7	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	37.2	41.9	7.0	2.3	7.0	4.7	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	65.1	32.6	0.0	0.0	2.3	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	51.2	41.9	2.3	2.3	2.3	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	46.5	34.9	14.0	0.0	4.7	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



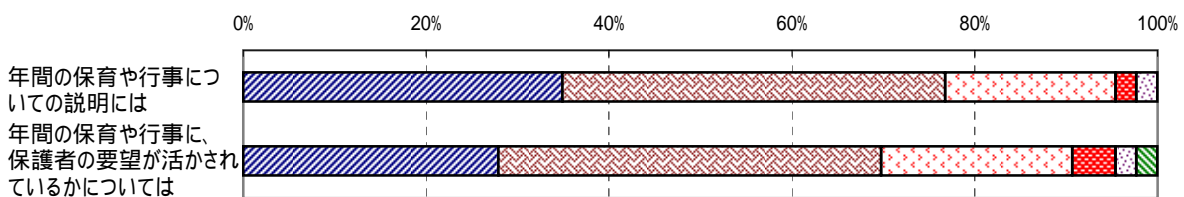
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	34.9	41.9	18.6	2.3	2.3	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	27.9	41.9	20.9	4.7	2.3	2.3	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

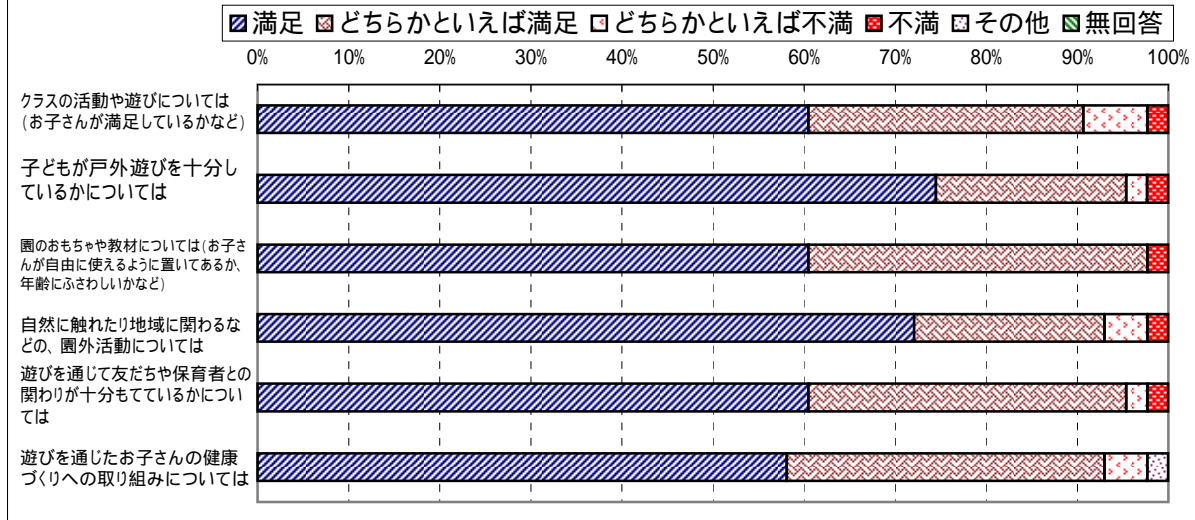


問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	60.5	30.2	7.0	2.3	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	74.4	20.9	2.3	2.3	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	60.5	37.2	0.0	2.3	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	72.1	20.9	4.7	2.3	0.0	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	60.5	34.9	2.3	2.3	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	58.1	34.9	4.7	0.0	2.3	0.0	100

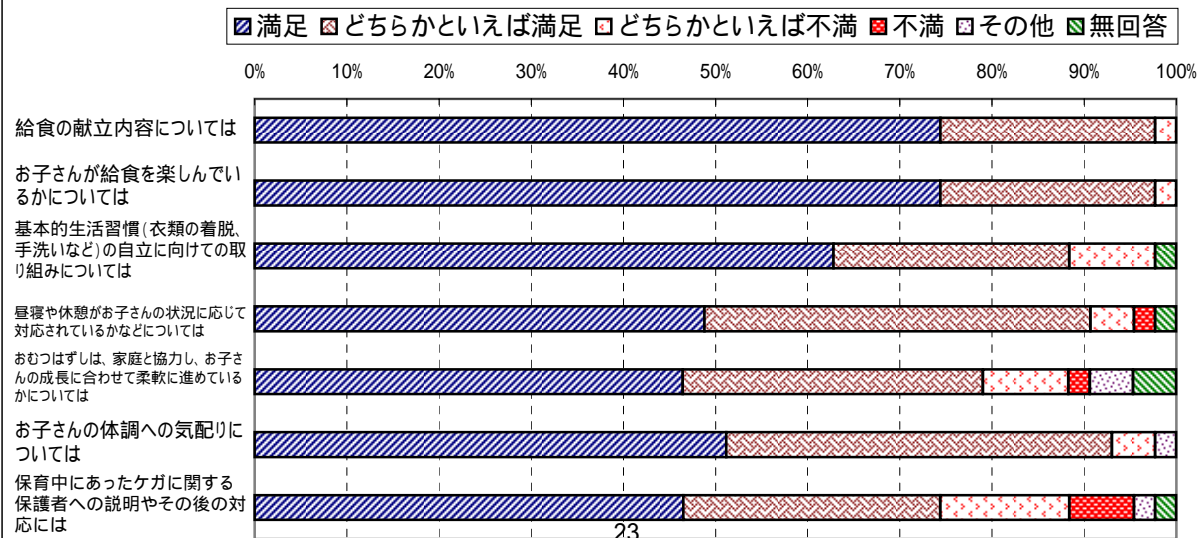
日常の保育内容「遊び」について



(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	74.4	23.3	2.3	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	74.4	23.3	2.3	0.0	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	62.8	25.6	9.3	0.0	0.0	2.3	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	48.8	41.9	4.7	2.3	0.0	2.3	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	46.5	32.6	9.3	2.3	4.7	4.7	100
お子さんの体調への気配りについては	51.2	41.9	4.7	0.0	2.3	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	46.5	27.9	14.0	7.0	2.3	2.3	100

日常の保育内容「生活」について



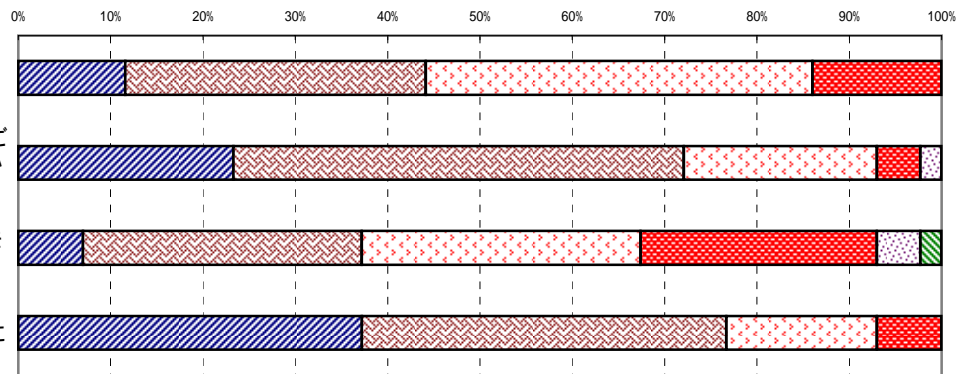
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	11.6	32.6	41.9	14.0	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	23.3	48.8	20.9	4.7	2.3	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	7.0	30.2	30.2	25.6	4.7	2.3	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	37.2	39.5	16.3	7.0	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



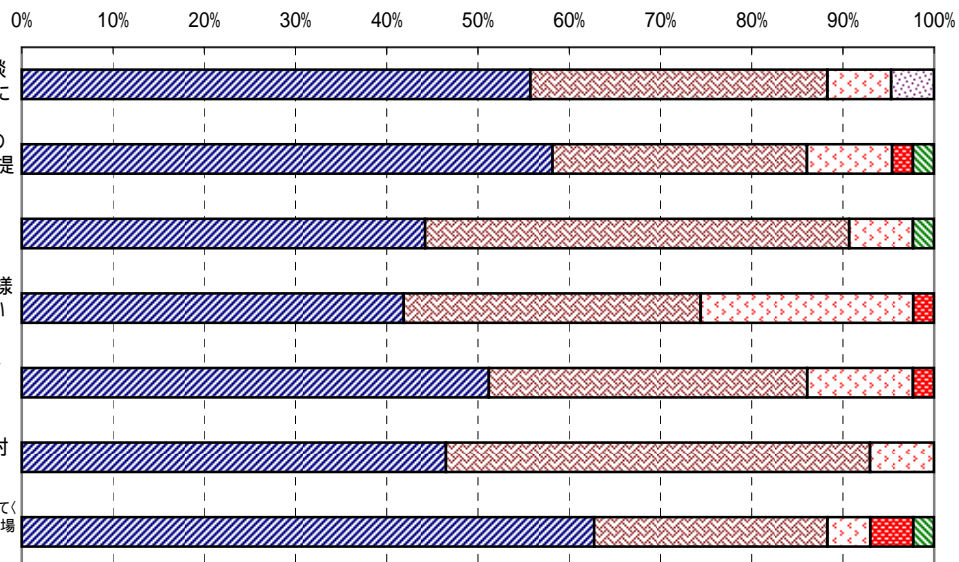
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	55.8	32.6	7.0	0.0	4.7	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	58.1	27.9	9.3	2.3	0.0	2.3	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	44.2	46.5	7.0	0.0	0.0	2.3	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	41.9	32.6	23.3	2.3	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	51.2	34.9	11.6	2.3	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	46.5	46.5	7.0	0.0	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	62.8	25.6	4.7	4.7	0.0	2.3	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

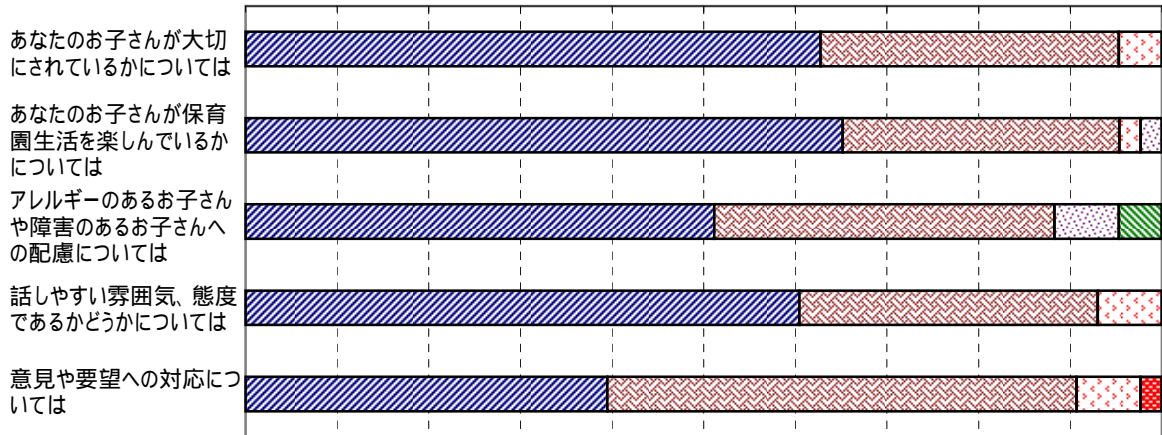
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	62.8	32.6	4.7	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	65.1	30.2	2.3	0.0	2.3	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	51.2	37.2	0.0	0.0	7.0	4.7	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	60.5	32.6	7.0	0.0	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	39.5	51.2	7.0	2.3	0.0	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

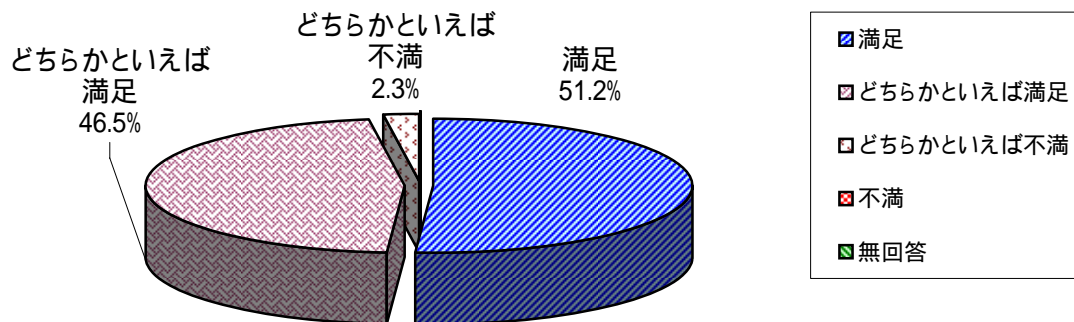


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	51.2	46.5	2.3	0.0	0.0	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 10月30日（木）9:00～18:30

11月6日（木）8:30～17:30

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス

保育室は2階ですが、4階のプレイルームへ行くときなど、みんな上手にハイハイで登ったり、降りたりしています。危なくないように少し下の段で見守る保育士の、「バックオーライ、上手上手」という声に励まされながら、一段一段しっかりと進んでいきます。

踊り場でお日様があたり光っているステンドグラスに気がつき、「ピカピカ」と目を輝かせたり給食室に立ちよったり、園舎の中でちいさな散歩を楽しんでいます。

子どもたちは、手遊びや絵本、お話などが大好きな様子で、話に合わせて身体を動かしたり、一緒に歌いながら集中して楽しんでいます。

時には、おもちゃの取り合いや、やりたくない時に「ヤダー」といったり、スープをこぼしても遊びにしまったり、自己主張する様子が見られますが、保育士は、おもちゃを複数用意したり、月齢差に合わせて遊びをずらしたり、子どもが集中して遊べるように配慮をしています。

園では布おむつを使っていますが、子どもたちはおむつが濡れると自分から保育士に取り替えてもらいに行きます。他の子どもにつられたのか、出てない（おむつが濡れていない）子どももいました。

1歳児クラス

遠くの公園まで散歩に行くときは、散歩車に乗って出かけます。水槽に金魚を飼っている家、電車の見える場所など、散歩コースを熟知していて、見える前から次は何と出会うのかわかります。道を渡るときは、「渡らして～」という保育士に合わせて声を出しています。小さな時からこの習慣が、大きくなったとき、園の前の道に飛び出さないことに繋がっているようです。

おむつ屋さんが来ると、束になったおむつを子どもたちが嬉々として次々に両手でかかえてトイレに持って行き、保育士が「ありがとう」と受け取っています。慣れた様子から、いつもの風景と思われれます。

自分でトイレに行く子どもには、保育士は床がタイルで冷たいため、足のつく部分にマットを敷いてあげていました。自分で伝えられない子どもは、定期的に保育士がおむつを替えますが、誰が出ていて、誰が出ていないかを保育士同士で確認しあっています。

2歳児クラス

このクラスは、男の子ばかり11人の元気いっぱいなクラスです。

散歩に行く近隣の大きな公園では、冒険心旺盛に力一杯遊び、危険の無いようにと見守る保育園唯一の男性保育士を走り回らせています。

保育室の中では、押し入れの下を基地にしたり、ブロックで想像力豊かに自動車や武器、リボンなど、いろいろな形を作り出して、ごっこ遊びに使います。

子ども同士の小さなぶつかり合いは頻繁にあります。自分が悪いと気がつくと自分から謝ることができ、相手を許す事もできる子どもたちです。自分たちで解決できないときは、保育士に状況や自分の気持ちをちゃんと伝えることができます。

給食は、きちんと席に着き、楽しくおしゃべりしながら、嫌いなものは減らしてもらい、残さず食べています。

給食が終わると、自分からトイレに行き、着替えた服は畳んで自分のロッカーのカゴにしまします。保

育士は、ふざけすぎた時などは注意しますが、出来るだけ自分でやるように見守っています。

3 歳児クラス

4、5 歳児は合同クラスですが、このクラスは単独で 10 人と少人数のため、一時保育を積極的に受け入れていきます。子どもたちは、一時保育の子どもとも親しく、自然と一緒に過ごしています。

また、散歩の時には、2 歳児や 4、5 歳児と一緒にすることが多いのですが、2 歳児と一緒に時には、手をつなぎ一列に並び、保育士から「お手本となるように」と励まされています。

散歩中道路を渡るときには、子どもたちは一斉に「渡らせて～」と大声で言って、保育士が安全を確認すると横断しています。また、散歩中には、地域の人たちとの触れあいがあり、出会う人たちに子どもたちが手を振る様子や、警官の一団と出会った時には、警官が敬礼の仕草をすると子どもたちが手を振って応える姿も見られました。

給食のときは、保育室の窓側のスペースにテーブルを置き、ランチョンマットと花で飾ります。保育士がおかずをよそい、当番がひとつずつ配っていきます。この時、当番は各自の食べたい量を一人ひとりに聞き、それを盛りつける保育士に伝えています。配膳が終わると、食器の置き方を確認して、みんなで一斉に「いただきます」と言って、グループごとに談笑しながら楽しい雰囲気です。

食べ終わった子どもから、歯磨きをしてトイレに行き、保育室のあいているスペースで着替えます。保育士が廊下に机とカーペットを用意すると、着替え終わった子どもたちは思い思いに、折り紙やブロック遊びをしてしばらく過ごします。

その間に保育士が部屋を掃除して布団を敷き終わり午睡の環境が整えられる頃、子どもたちは、自主的に机とカーペットを片付け、保育士がカーテンを引いて、絵本を読み始めるとみんな集まり集中して聞いています。

4、5 歳児クラス

4、5 歳児は合同クラスで、子どもたちは元気で、いつもとても大きな声をだして、よく遊んでいます。

朝、登園すると幼児は朝の会まで前の公園で遊んでいます。2 歳児から 5 歳児までが一緒になり、花いちもんめ、かけっこなど、元気に走りまわっています。後から来た子どもはそのまま公園で遊びの輪に加わり、保護者は荷物を持って園へ入ります。担当の保育士はチェック用の名簿をぶら下げて、登園児の確認をしています。公園の周りは歩道がめぐっているだけですが、子どもたちは歩道から外（道路側）には出ようとしません。

9 時 20 分頃、保育士の声かけで、おもちゃを片付け園舎に入ります。5 歳児は、最後に公園のおもちゃを全て運び、園舎の横の遊具置き場に使った車、キックボード、スコップなど方向を揃えてきちんと並べ、それぞれ数を数えて保育士に報告します。

保育室に戻ると朝の会の後、どんぐりの形に折り紙を折り、それを画用紙に貼って絵を描きました。5 歳児が 4 歳児の手伝いをする場面もありました。

給食は、当番がグループ毎に食器や汁物を配膳して、主菜副菜はグループ毎のテーブルに大皿で置き、自分で食べられるだけよそいます。唐揚げは人気で給食室にお代わりをもらいに行きましたが、野菜は最後大皿に残ってしまいました。お代わりをねだる子ども、食が進まない子どもなど、30 分過ぎても食べ終わらない子どもには、保育士がそばに行き支援します。

食後は、保育士が机といすを片付け、床をほうきで掃き、モップで水拭きしたあと、保育室に昼寝用の防災ごさを広げ布団を敷きます。食べ終わった子どもたちは、廊下にマットを敷いて、おしゃべりしたりふざけたりしながら賑やかにパジャマに着替えます。

全員が着替え終わると、自主的に廊下のマットやおもちゃを片付けて、5 歳児は自分で布団を敷きます。午睡の準備が整い保育士が手遊びを始めると子どもたちは保育士の前に集まり、次に絵本を読み始める頃には全員が静かに聞き入っています。

他の子どもたちが作業をしながらも遊んでいたり、補助の保育士の名前を呼びすてにしたりして、担任から何度も注意を受ける子どもたちがいましたが、叱る保育士はあまり厳しい様子はありません。その子どもたちも、次のプログラムへ移るときには、自分で使ったものを片付け保育士の話に耳を傾けています。

まとめ

園庭はありませんが、目の前に公園があり、近隣にも大きな公園が沢山あるという恵まれた環境を最大限活かしています。また、異年齢児の交流の場が多くあり、大きい子どもが小さい子どもを励ましたり、知っていることは教えてあげています。園の目標の「身体をおもいきり使い、友だちと遊ぶのが大好きな子」が実践されています。

子どもたちは、毎日の生活習慣が身についていて、特に保育士に指示されなくても、着替えや片付けなどを自主的にやっています。ふざけすぎた時や、けんかになって子どもだけでは解決できないときには、保育士が促したり、調整役を務めたりしますが、殆どは子ども同士で問題を解決しています。

全体的に、職員も子どもものんびりとのどかな感じがあり、子どもたちの心の自由が大切にされています。例えば、時間を過ぎて遊んでいても、保育士がきつく注意し制止するのではなく、子どもたちが自ら気づき遊ぶのをやめて片付けをする姿が、たびたび見られました。ここでも、園の目標の「自分で考え行動できる子」として、自立した子どもたちが育っています。

事業者コメント

第三者評価を受けることになって、乳児部・幼児部・給食などと分かれて話し合いをし、それを持ち寄って、更に話し合いを重ねてきました。保育をする中で大切にしていること、また弱いところ、「こういうこともやっているよね・・・」といろいろな意見を交わすことができました。

今回、職員みんなで意見を出し合い確認することができ、良い機会になりました。また、私自身も給食を見直し、学ぶことが多かったです。

これからも、子どもたちの発達に沿って、食育を進めていけたらと思います。

(主任栄養士 平野祐子)

第三者評価を受けるにあたり、乳児部・幼児部・給食など五つのグループに分かれて項目を一つずつ話し合っていました。少人数でしたので、みんなが意見を出し合い、それぞれの視点から、細かく見直す良い機会になりました。話し合っていく中で、お互いの認識を共通にしていくことができ、このように話し合っていくことの大切さを改めて感じました。また、今まで無意識に行っていたことの意味を改めて感じたり、今までの保育を振り返ることで、課題がはっきりとわかりました。

今後、改善すべき内容をみんなで考えていきたいと思います。

保育の中身だけでなく、保護者への関わりを共通認識にするために、また、もっと良い関わり・協力関係を築いていくために、話し合いを大切にし、頻繁にしていきたいと思っています。

(主任保育士 佐藤幸恵)

小鳩保育園創立から 50 年。「働く女性たちと子どもたちの為に最善を尽くす」ことを理念として歩んできました。

現在、法人として 4 施設に広がり、経験の豊かな職員の異動もあり、若い職員が多くなりました。そこで、第三者の目で見えただき、若い職員の意欲、力を引き出し、小鳩の子どもたちの姿と保育を全職員でとらえ直し、今後に向かっていきたいという気持ちで第三者評価を受けました。

自己評価に取り組む過程で、様々な視点から意見交換をし、子どもたちの姿や日々の保育に対する認識の共有化、課題の整理などを行うことができました。このことは職員全体の自信にもつながり、又「父母と園が子育ての悩みや喜びを伝え合い、みんなで育ちあう」という小鳩の理念に一層強い確信を持つことができました。

調査員の方々には、保育の中での観察を丁寧にしていただき、資料もみていただき、ありがとうございました。自然な雰囲気ですぐに入社し、子どもたちと接して下さったことで、子どもたちも普段のままの姿を出すことができたと思います。

家族アンケートについても短期間にもかかわらず、87.8%の回収率で満足度も高く、大変嬉しく思います。父母会のご協力のおかげと思い、感謝致します。

今後の課題についても十分検討して、良い方向を探っていきたいと思っています。

今後も職員一人ひとりが保護者の皆さんとのコミュニケーションを一層大切に、信頼関係を深めていきたいと思っています。そして共に、小鳩保育園と法人を発展させていきたいと思っています。

(園長 足立美智子)

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るすることができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
